

感謝の心をこめて

Challenge & Smile



平成27年6月30日

No. 15-139

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

第55回愛媛県内企業業況見通し調査結果について

—景況感は2期ぶりに改善、消費税率引き上げの影響薄れる—

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称 IRC、社長 山崎 正人）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2015年7月1日発行の「IRC Monthly」2015年7月号に掲載の予定です。

記

【調査要旨】

1. 愛媛県内企業の2015年上期（1～6月）の業況判断DIは前期比7ポイント改善し▲9となった。部門別では、製造業が同10ポイント改善の▲5、非製造業も同5ポイント改善の▲12となった。
2. 2015年下期（7～12月）DIの見通しは、2015年上期に比べて2ポイント改善し▲7となった。部門別では、製造業が同3ポイント改善し▲2、非製造業も同1ポイント改善し▲11となった。
3. 2015年上期の売上高実績見込みは、前年同期比4.8%の増収となった。2015年下期の売上高見通しも、2014年下期比6.6%の増収となった。
4. 2015年上期の設備投資実施企業の割合は、前期比2.5ポイント上昇の46.7%となった。投資目的は「既存設備の維持・補修・更新」が65.5%と最も多く、次いで「生産・販売力拡充」が29.6%であった。2015年下期の設備投資計画企業の割合は48.2%で、2015年上期に比べ1.5ポイント上昇した。
5. 県内経済は、一部に弱さが残るものの、緩やかな回復基調が続いており、企業経営者の景況感も改善している。先行きの景況感は、全体でやや改善したものの、業種によってばらつきがみられた。

以上

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

NEWS RELEASE

株式会社 伊予銀行 愛媛県松山市南堀端町1番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

はじめに

日本経済は、消費税率引き上げ後の最悪期を脱し、緩やかな回復基調が続いている。企業収益は改善の動きがみられ、雇用・所得環境の改善を受けて個人消費にも持ち直しの動きがみられる。

県内経済も、全国と同様に住宅投資や個人消費など一部に弱さが残るものの、緩やかな回復基調が続いている。ただし、持ち直しには業種や企業でばらつきがみられ、景気回復はまだら模様の様相である。

こうしたなか、愛媛県内企業の景況感を把握するためアンケートを実施し、分析した。アンケートの調査方法と回答企業は以下のとおりである。

調査実施内容	
1. 調査目的	愛媛県内における景気動向の把握
2. 調査対象	愛媛県内に事業所をおく法人 831社
3. 調査方法	郵送によるアンケート方式
4. 調査時期	2015年5月
5. 調査事項	業況全般、売上高、設備投資、雇用人員、仕入価格、販売価格など
6. 回答状況	有効回答企業 442社 有効回答率 53.2%

1. 業況判断D I

(1) 2015年上期実績見込み

景況感は製造業・非製造業ともに改善

2015年上期の業況判断D Iは前期比7ポイント改善し▲9となった。部門別では、製造業が同10ポイント改善の▲5、非製造業も同5ポイント改善の▲12となった。製造業では、「印刷」や「繊維品」、「紙・パルプ・紙加工」などが改善した。非製造業では、「小売業」や「運輸業」などが改善した。

(2) 2015年下期見通し

全体ではやや改善するも、業種でばらつきがみられる

2015年下期の業況判断D Iの見通しは、2015年上期に比べて2ポイント改善し▲7となった。部門別では、製造業が同3ポイント改善し▲2、非製造業も同1ポイント改善し▲11となった。製造業では「食料品」や「金属・造船・機械」、非製造業では「小売業」や「その他サービス業」などが改善した。

表-4 業種別業況判断DIの推移

業 種	2014年 下期	2015年 上期	2015年 下期見通し
全 産 業	▲16	▲9	▲7
製 造 業	▲15	▲5	▲2
食 料 品	▲30	▲23	▲3
織 維 品	▲23	10	5
タ オ ル	▲25	0	▲7
縫 製	▲17	40	40
木材・木製品	0	▲38	▲50
紙・パルプ・紙加工	▲29	▲13	▲9
印 刷	▲50	0	▲50
化 学 ・ 石 油	▲23	▲8	▲8
金属・造船・機械	8	13	18
造 船	22	▲22	▲11
農 業 機 械	▲33	▲50	17
そ の 他	13	28	23
(その他製造業)	▲83	▲63	▲50
非 製 造 業	▲17	▲12	▲11
建 設 業	7	13	4
商 業	▲28	▲25	▲19
卸 売 業	▲11	▲24	▲22
食 料 品	▲33	▲21	▲29
衣 料 ・ 身 の 回 り 品	0	▲50	▲50
薬 品 ・ 化 粧 品	0	▲50	▲33
建 築 材 料	▲29	0	8
電 気 機 器	33	▲29	▲43
紙 ・ 紙 加 工 品	▲33	▲100	▲100
そ の 他	0	▲15	▲8
小 売 業	▲51	▲26	▲15
自 動 車	▲89	▲43	▲14
衣 料 品	▲67	▲33	▲33
機 械 ・ 電 器	▲13	0	▲13
大 型 小 売 店	▲88	▲13	0
そ の 他	▲27	▲35	▲18
運 輸 業	▲11	0	▲3
陸 運	▲25	▲5	▲11
海 運	7	6	6
旅 館 ・ ホ テ ル 業	▲8	0	▲9
そ の 他 サ ー ビ ス 業	▲19	▲16	▲12

2. 売上高

(1) 2015 年上期実績見込み

大手企業がけん引し、前年同月比増収の見込み

2015 年上期の売上高実績見込みは、前年同期比 4.8%の増収となった。部門別にみると、製造業では「木材・木製品」を除く全ての業種で増収となり、全体で同 6.8%の増収となった。一方、非製造業では「その他サービス業」や「小売業」で減収となり、全体で同 1.1%の減収となった。

(2) 2015 年下期見通し

製造業が好調な一方、非製造業の持ち直しは鈍い

2015 年下期の売上高見通しは、2014 年下期比 6.6%の増収となった。部門別にみると、製造業の見通しは「化学・石油」や「金属・造船・機械」などが押し上げ、同 8.7%の増収となった。一方、非製造業は同 0.4%の減収となった。マイナス幅は縮小しているものの、弱さの残る結果となった。

3. 設備投資

製造業を中心に更新投資が進む

2015 年上期の設備投資実施企業の割合は、前期比 2.5 ポイント上昇し 46.7%となった。部門別にみると、製造業は同 3.8 ポイント上昇して 54.7%、非製造業も同 1.5 ポイント上昇して 41.5%となった。投資目的は「既存設備の維持・補修・更新」が 65.5%と最も多く、次いで「生産・販売力拡充」が 29.6%となった。

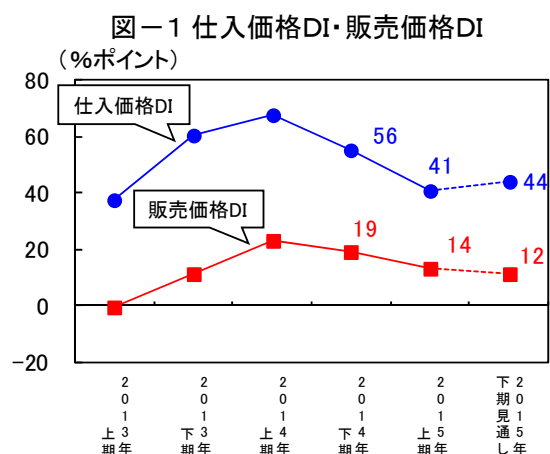
2015 年下期の設備投資計画企業の割合は 48.2%で、2015 年上期比 1.5 ポイント上昇した。部門別にみると、製造業は同 7.7 ポイント上昇して 62.4%となる一方、非製造業は同 2.5 ポイント低下して 39.0%となった。投資目的は、引き続き「既存設備の維持・補修・更新」が 69.9%と最も多かった。

4. 仕入価格DI・販売価格DI

仕入価格DIの「上昇」超が続く

仕入価格DIの 2015 年上期実績見込みは、前期比 15 ポイント低下して +41 となった。部門別では、製造業は同 15 ポイント低下の +46、非製造業も同 14 ポイント低下の +38 であった。2015 年下期見通しは、2015 年上期比 3 ポイント上昇し +44 となった。部門別では、製造業は同 3 ポイント上昇の +49、非製造業も同 3 ポイント上昇の +41 であった。

販売価格DIの 2015 年上期実績見込みは、前期比 5 ポイント低下の +14 となった。2015 年下期見通しも 2015 年上期比 2 ポイント低下の +12 となった。



注: DI=「上昇」の割合-「低下」の割合
DIがプラス(「上昇」の割合>「低下」の割合)の場合、仕入・販売価格が上昇しているとみる企業の割合が多いことを表す。

おわりに

県内経済は、消費税率引き上げの落ち込みから徐々に持ち直しており、企業経営者の景況感にも底打ちがみられた。ただし、引き続き人手不足や原材料高など懸念材料が残るなか、先行きは楽観できないと考えられる。

なお、最後になりましたが、本調査にあたり、数多くの企業の方々にご協力いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

(菊地 麻紀)